

図1 地震時における日本人の災害行動に至る流れ

§ 4 災害観から災害行動に至る考察

危機的場面に至る直前に意思決定者のでしてきた行動や環境・信念・経験・知識など、その人が危機的場面に持ち込んだものを初期状態とする。そのなかに災害に関する日本人の基本的観念である災害観がある。災害観は多くの人々に受け入れられ内面化し、知らず知らずのうちに伝承されてきたのである。図2に災害観の概念を示し、以下に構成する要素について説明する^{4, 5)}。

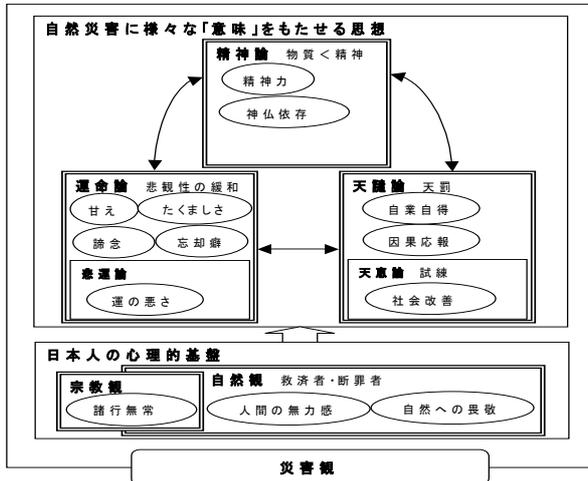


図2 日本人の災害観

災害観は日本人の心情に強く訴えるものである。その理由は災害観の根底に「自然観」と「宗教観」があると考えられる。日本は自然の優美さや残酷さを強く感じており、日本人の災害観には自然の偉大さに対する自然への畏敬と人間の無力感が色濃く反映される。人間の自然に対する考え方（「自然観」）を基底にして、また日本人の思考に影響を与えている仏教の考え方（「宗教観」）と関わり合うことで、根本となる心理的基盤となっている。災害を「自然観」「宗教観」で受け止め、災害をどう理解しどう接するかを考える上で、日本人は「天譴論」「運命論」「精神論」の思想をもっている。この思想によって災害を乗り越えるために災害に様々な意味を持たせてきたと考えられる。「天譴論」は災害を天罰と捉え、災害を自分あるいは他人への過去の所業への罰とみなしている。「運命論」は災害を運命として受け止め、災害に対する悲観性を緩

和させる思想をいう。「精神論」は物質よりも精神が優位であると考え、心の持ち方や内面的努力で災害に対処していこうとする態度をいう。これらの思想が互いに関わりあうことによって、日本人は災害に対する考え方が決まる。次に初期状態において外的刺激を受ける。その結果、環境への再適応をせざるを得ない状況となる。本報では、危機的状況として外的刺激を地震発生とする。その後災害意識が生まれる。災害一般に対する観念（災害観）から具体的災害に対する意識（災害意識）へ移り変わる。日本人は、許容範囲が広く寛容であるため比較的何でも受け入れやすい傾向があり（受入/受身/執着）、考え方や人間関係に柔軟な弾力性をもって調和をはかる（臨機応変/仕方ない/現状肯定）。判断視点を固定させず、状況に応じてことに対処する。バランス感覚をもって調和をはかり、判断を下す（覚悟/楽観/悲観）。その判断によってどう行動するかが決まる。そして、制御行動として人間が対応すべき危機的状況を察知した後、人は何が起きたのか確定しようとし、どれくらい時間が切迫していてどれくらい間に意思決定すべきかを指定する。次に、災害の状況に対してどう対処するのか意思決定として、得ていた情報または情報探索行動によって得られた情報をどう処理するのか能力配分をする。この場合、情報の信用性に大きく左右される。意思決定には避難行動、避難準備、救助行動、救助準備、救助要請、現状把握、現実逃避、現状維持があり、また意思決定をしない場合も考えられる。その後、それらの意思決定を反映させ実際の災害行動となる。災害行動には、危機的場面において生じる情緒的な反応のように自己の内部への対応である内的反応と、危機的場面を切り抜けるためにいくつかの可能な選択肢から一つまたはいくつかの選択肢の組み合わせを選び、その実行を決定する外界への対応である外的反応がある。これらが互いに関係しあい行動となる。

§ 5 おわりに

本研究で日本人独特の災害観が災害行動に大きな影響を与えていることを3つの地震災害実例を基に明らかにした。災害観は日本人の災害に対処するためのエネルギー源であったり、単に災害を直視しないためのものと考えられる。われわれ日本人がこのことをきちんと自覚することで災害観が有効に受け継がれ、災害観が防災の障害でなく潤滑油となるような対策の提案につながり、被害の軽減の効果になることが期待される。

【引用文献】

- 1) 望月利男:1993年北海道南西沖地震の総合調査研究報告,東京都立大学研究センター 都市防災・安全部門研究室,平成6年3月31日.
- 2) 西井一夫:毎日ムック完全保存版 詳細阪神大震災 1995年1/17からの復活,毎日新聞社,1996年1月17日.
- 3) 朝日新聞(東京版)朝刊・夕刊:2004年10月24日~2004年11月13日.
- 4) 廣井脩:災害と日本人 巨大地震の社会心理,株式会社 時事通信社,1986年12月5日.
- 5) 伊村則子:日本人の災害観から災害行動に至るプロセスとそれをふまえた地震防災教育に向けて,日本女子大学大学院紀要家政学研究所・人間生活学研究科,第4号, pp.77~82, 1998年. 他

*1 財団法人 住宅生産振興財団
*2 日本女子大学住居学科 教授・工学博士
*3 武蔵野大学環境学科 講師・博士(学術)

*1 The MACHINAMI Foundation, A Coordinator of Beautiful Townscape
*2 Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr. Eng.
*3 Lecturer, Dept. of Environmental Sciences, Musashino Univ., Ph. D.